

平成29年度 第1回政策推進会議報告

日 時 4月20日 9時30分～10時46分

場 所 4-1会議室

出席者 22人

1 商業地区における建築物の駐車施設（自動車駐車場）の設置基準の見直し（素案）に対する市民意見公募手続の結果等について

都市整備局長から資料に基づき報告。

2 尼崎市空家等対策計画の策定について

都市整備局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

（森山副市長）空き家の集中地区は木造密集地域とリンクしているのか。木造密集地域についてはエリアで対処していく考え方がある中で、個別の建物に対しての計画を載せていくことになるが、どのように整理しているのか。

木造密集地域の対策は道路整備しかできておらず、国にも個別の要望を出しているが前に進んでいない状況である。空き家は必ずしも木造密集地域に集中しているわけではないため、専門家の意見を聞きながら本計画を作っていくと考えている。

（岩田副市長）基本情報の問題点、課題の欄に「市内には約7,600件の空家」という表現があるが、これまで住宅実態調査等では約35,000件の空家があると言ってきたので、別の表現のほうがよいのではないか。

約7,600件は戸建（長屋含む）の空家件数であり、集合住宅は除いている。

（市長）集合住宅の空家は単に賃貸の流動等により入居者がいないから除くという整理か。集合住宅で老朽化しているものはないのか。

分譲マンションでは老朽化しているものも相当数ある。表現については改めて検討する。

（市長）そもそも論になるが、基本情報の様式は字が多くなり親切でない。最初に公表される基礎資料としては、グラフ等があれば視覚的にもわかりやすいだろう。政策形成プロセス計画書は見やすく外部からも好評である。

（市長）尼崎市危険空家等対策に関する条例は既に老朽化した危険空家を対象としたものであるが、今回の計画では予防的な措置や利活用を含めた全体像がパッケージで表現できるということで期待している。分厚い計画にならないようにコンパクトにまとめよう。分譲マンションを含め、予防はこれからの都市部の大きな課題である。民間へ早期に介入するという施策に対しては、議会からは過保護・やりすぎではないかという意見が出たと聞いたが、私は全く逆の意見で、放っておいたら対応できなくなるので早く介入するべきだと思っている。しかし、市税をどこまで投入するのかという議論があるのは当然だ。なるべくお金を使わないようなルール作りやインセンティブ制度などは積極的に実施していかなければ、本市のような住宅密集都市部は危険である。

3 中学校給食基本計画策定に係る「基本情報」「政策形成プロセス」「尼崎市立中学校給食検討委員会報告書」の公表について

教育次長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・財政的な面ではプロジェクトの中間総括に影響する。市全体として行革をしていかないといけない中で、イニシャルコストの部分は投資の総枠の中で工面していくが、経常財源は生みだしにくい。効率的な運用を検討していただき、早期に市長部局と調整していただきたい。
(市長)本市の財政状況を加味して実施方式を確定させ、後期の収支見通しを含めた財政計画を立てないといけない。5月の市民意向調査を踏まえて実施方式を確定し、後期の収支見通しに反映させたいという打ち合わせを教育委員会と行っている。
- ・センター方式の場合のイニシャルコストとランニングコストはどの程度か。
コストについては、仮にセンター方式にするとしても、1か所か2か所か、高層階にするかなどいろいろなやり方があるので、今のところはわからない。最近始めた市で言えば、明石市はセンター方式で2か所(うち1か所は来年から稼働)だが、当初予算からイニシャルは10%ほど増え、ランニングも当初の見込みから変わってきていると聞いている。そういう先進事例を参考にしながら試算していきたい。秋にかけて各局と相談させていただきたい。
(市長)ブレが出るのはわかるが、数億か数十億かざっくりと試算した資料がなかったか。
その辺の資料が正確か一考するために明石へ調査に行ったが、実際には変わってくるということがわかった。例えば、米飯をセンターで炊飯するか業者に発注するかでも敷地面積やコストが大幅に変わる。センターでの炊飯では専用設備への投資が必要となるが、保護者負担は原材料費だけでよい。一方で、業者に発注すると設備投資は必要ないものの、1食あたり約30円かかり、それは保護者負担となってしまう。
(市長)そのような選択にあたっては、先ほど話のあった財政事情を踏まえた選択をしていざるをえない。とは言え投資が無駄になるようなこともできないし、今の尼崎の小学校給食が美味しいので、中学校給食にも期待したい。
- ・給食の将来的な見込みについては、今後子どもが減っていく中でフレキシブルに対応できるような施設体系をもつなど、いろいろな可変要素がある。給食だけである程度の生産内容を維持していくのはパフォーマンスが悪いため、安全安心に配慮したうえで他にも活用できるような自由度を持たせる等、できるだけコストを下げて運営できるように検討していただきたい。
(市長)将来的に子どもの喫食が減ってきたときに、老人用の食事を作っている業者に使ってもらえるかなどの可能性も考えないといけない。
他都市にもそういう事例があるので検討する。
- ・センターの候補地はいつまでに決めないといけないか。
基本的には夏までで、早ければ早いほどよい。
(市長)1か所にするか2か所にするかについても、そもそも土地がないと話が進まない。自分たちがこうしたいと考えているものが環境的に許されるかわからないので、様々な要素を全部出してみたいという組み合わせで検討していかなければいけない。
(市長)センター方式で2か所にするのは食中毒対策か。

そうである。明石は当初の予定では1か所だったが、食中毒対策の面から2か所に変更になった。調理後2時間以内の喫食に対応できるかが重要。

(市長) その点では尼崎はコンパクトなので1か所でできる可能性はある。その場合、今度は広い土地が必要になるから一長一短があるだろう。

(岩田副市長) 中学校給食については各部局と様々な調整を進めているが、課題が山積しておりまだ正式に報告できる状況にない。

(森山副市長) どの場所を対象として検討するかをまず明らかにしないといけないので、その問題を中心に今は進めていただいている。着手したばかりだが、教育委員会の案をベースにこれから精力的に調整していきたい。

・基本計画が策定されたら、実施までは最短でどれくらいかかるのか。

基本計画には実施時期も盛り込むことになるが、今の段階では前提条件がまだ決まっていないのでいつとは言えない。

(市長) 9月までにはまとめて、議会へ予定として報告していかなければならない。

(市長) 中学校給食については、複数の所属にまたがって協議していかないといけない事項があると同時に、莫大な財源を確保するために全庁をあげた様々な取り組みが必要となってくる。尼崎の未来のためにご協力願いたい。

4 その他

森山副市長から、平成29年度予算に対する各会派の意見表明(概要)について説明。

ひと咲きまち咲き担当局長から、みんなの尼崎大学のロゴ、冠等の使用について説明。

ひと咲きまち咲き担当局長から、市政課題研修「科学的発想力を楽しく身につける」について説明。

ひと咲きまち咲き担当局長から、シビックプライドフォーラムについて説明。

危機管理安全局長から、本庁舎北側信号交差点の交通ルール遵守について説明。

経済環境局長から、平成29年度10万人わがまちクリーン運動について説明。

以上